

[様式14]

(対象事業：1. 子供を対象とした事業及びその開発に係る事業
3. ミュージアムを核とした地域人材・組織の育成・連携活用に関わる事業)

事業名：ワークショップ

「岩宿人のくらしをさぐる」

事業者名：岩宿博物館

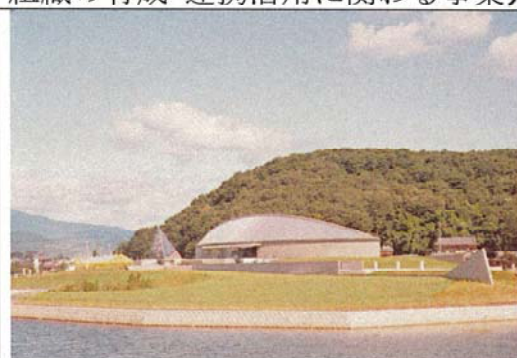
連携事業館名等：みどり市立笠懸東小学校、みどり市立笠懸北小学校、みどり市立福岡中央小学校、みどり市立神梅小学校

住所：群馬県みどり市笠懸町阿左美1790-1

TEL： 0277-76-1701

FAX： 0277-76-1703

HPアドレス：iwajukuhaku@city.midori.gunma.jp



岩宿博物館 外観

①施設概要

平成4年、日本に数万年前に遡る岩宿（旧石器）時代があることを最初に証明した史跡岩宿遺跡に隣接して開館した。岩宿遺跡とその時代を取り上げたテーマ博物館として、開館以来教育普及活動に重点をおいた活動を展開している。特に、石器作りなどの体験学習は全国でも例の少ない特徴的な体験学習と評価されている。

②事業の意図目的

岩宿博物館では、近年学校との連携を柱とした体験学習事業に積極的に取り組んでいる。しかし、個々の体験学習実施への対応が多忙なため、その教育プログラムとしての体系や器材の整備が望まれていた。今回の事業によって、体験学習の体系化を図るとともに、その成果を学習シートにまとめ、また新規あるいは補充によってその教材を充実させることにより、体験学習事業が体系化されるとともに、今後教材の充実によって博物館が行う歴史・文化の普及・啓蒙活動の拠点となることを目的とする。

③事業概要

今回の事業によって、教育プログラムについては、これまでの体験学習の学習指導のあり方をまとめ、鹿の毛皮を使ったイエを新たな教材として開発し、その学習プログラムの検討を行った。主たる事業として行った、ワークショップでは、上記4校と石器作り、土器作り等の体験学習を事業の一部として実施した。展示事業としては、8月から9月まで体験学習を取り入れた「岩宿人のくらしをさぐる」を開催し、鹿の皮で覆われたイエは展示資料としても活用した。さらに岩宿（旧石器）時代に関するワーク（学習）シートを作製し、市内及びそれ以外の教員に配布している。器材とデータの活用は、今回の整備により順調に体験学習が遂行でき、今後もその活用が広がるものと予想できる。学校外への広がりとしては、ボランティアの体験学習指導員の研修及び自己学習が行われた。最後に今回の事業について事業実施報告書でまとめ、今後の参考資料とした。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ ）
作成した報告書等
冊子（事業実施報告書）
その他（夏休みの子供向け展示「岩宿人のくらしをさぐる」リーフレット）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 4,525 人
内 訳（展示観覧者3334人、笠懸東小学校延べ730人、笠懸北小学校延べ417人、神梅小学校延べ24人、福岡中央小学校延べ20人）

(1) 事業の実施状況について

○ 夏休み子供向け展示「岩宿人の暮らしをさぐる」展示

1. 展示の趣旨

岩宿遺跡に隣接して立つ当岩宿博物館では、夏休みになると、親子連れで訪れるグループが特に目立つようである。また、岩宿遺跡やこの時代のことを夏休みの自由研究の課題に取り上げる児童や生徒も多い。このような夏休みを利用して岩宿博物館で学ぶ児童や生徒を対象に、その様な学習を支援するため、夏休みの子供向け展示として「岩宿人の暮らしをさぐる」と題して展示を開催した。

展示では、遺跡から発見された石器類に始まり、これまでの日本や諸外国の岩宿（旧石器）時代の研究成果をもとに、復元した道具類や模型などを駆使して、岩宿（旧石器）時代の人々がどのような暮らしをしていたのか、わかりやすい展示を心掛けた。また、展示中には実際の模造石器や道具類、衣服などに触ったり、玉を作ったりといったハンズオンの展示も用意し、体験をしながら岩宿（旧石器）時代を楽しく学べるように工夫した。

2. 開催期間と来館者

開催期間：平成 19 年 7 月 29 日から同年 9 月 17 日

期間中の来館者数：3, 334 人



展示状況（エントランス）



展示状況（鹿の毛皮のイエ）

○ワークショップ（体験学習事業）

1. みどり市立笠懸東小学校

笠懸東小学校では、本年度石器作り、勾玉作り、土器作りとさまざまな体験学習を展開してきた。

11 月 16 日には、単発的事業であるが、祖父母との交流事業で勾玉作りを実施した。

土器作りでは、同校では粘土作りに始まり、土器作り、そして土器を使うという、土器に関しては最も充実した体験学習を実施した。その工程は、野焼きの可能な粘土作りには粘土のほか砂を必要とするが、粘土や砂を児童自身が 11 月 22 日に計量し、その原土に水を加えて 11 月 27 日に練った。10 日ほど練った粘土をねかせて 12 月 7 日に土器を作り、1 ヶ月以上土器を乾燥させた 1 月 30 日に土器を校庭で焼き上げた。そして土器の完成後には、往時の土器と同じくその土器を使って実際に煮炊きをしたが、1 度予備炊飯を 2 月 1 日に行ったのち、2 回目は 2 月 15 日に授業参観で父兄も参加して土器による煮炊きを行っ

たほか、イノシシの肉を石のナイフで切り、それをイノシシ鍋にし、燻製を作るなど、縄文時代の食事を親子で楽しんだ。



土器作りの様子



煮炊きの様子

2. みどり市立笠懸北小学校

笠懸北小学校では、全員で土器作りと石器作りを実施した。石器作りは10月25日に学校に出張して行った。土器作りは、10月19日に学校で行い、土器焼きは、岩宿博物館に近いため、11月21日に親子学級として博物館の広場で行った。土器焼きに際しては、石のナイフでイノシシの肉を切り、火起し体験を行い、土器焼き終了後には、イノシシ鍋にして全員で試食した。

同校の総合学習は、11月末頃から別の展開で進められた。6年生全員が12のグループに分かれてグループ学習を行い、最後に授業参観で発表するというものである。岩宿（旧石器）時代の環境や動物、道具や石器、土器、食べ物、当時のイエなどの班があり、それぞれ博物館や図書館、インターネットを使った調べ学習を行い、実際に博物館で体験し、現地調査を行って研究を重ねた。その学習の成果は、2月20日に同校体育館に各班でブースを設けて父兄や5年生の前で発表された。模造紙で発表資料としてまとめ、また、体験や試食ができるなど発表の仕方にも工夫がみられた。なお、本事業で作成した毛皮のイエも体育館に出現し、多くの児童や父兄の関心が集まっていた。



石器作りの様子



総合学習発表会に出現した毛皮のイエ

3. みどり市立神梅小学校

神梅小学校は、6年生6人という小規模校である。既に事業対象期間以前に石器作りと見学を例年通り実施していた。本年度は、更に11月13日に土器作り、12月13日には鹿

の毛皮で覆われたイエを同校の体育館で作り、1月22日に土器焼きとともに勾玉作りを行った。小規模校であることから、それぞれの体験をより充実した形で開催することが可能であった。



土器作りの様子



毛皮のイエ作りの様子

4. みどり市立福岡中央小学校

福岡中央小学校も、6年生10人と小規模校である。昨年度から、博物館見学と石器作りを事業機関以前に行った。その後、本年度は11月15日に土器作りを行い、12月18日に校庭で土器焼きを実施した。



土器作りの様子

(2) 地域との連携について

体験学習の実施については、今回の対象事業に関わらず、岩宿博物館友の会会員より延べ300人以上の協力をいただいた。対象となった事業だけでも、延べ39人のボランティア指導員の活躍があった。それらのボランティア指導員は、友の会会員の(かな)でも博物館の近傍に住んでいる方がほとんどである。また、地元の小学校が対象であるときには、率先した協力が得られた。その点で、地域の方々との連携が図られていると考えている。なお、上記のようにボランティアの方々には研修を随時行っているが、自主的な学習活動もされていた。このような地域連携のボランティア指導員の学習活動は、生涯学習として位置づけできていると考えている。

(3) 成果物について

○夏休みの子供向け展示「岩宿人のくらしをさぐる」

展示広報用ポスター

(B2版カラー 500枚)

展示チラシ

(A4版カラー3つ折 5000部)

鹿の皮で覆われたイエ

(3m四方のベース、骨組み柱12本、毛皮40枚)

○ワークシート(学習シート)

「岩宿人のくらしをさぐる」

(A4版カラー32ページ、CD-ROM添付2000部)

○報告書

事業実施報告書

(A4 版黒 1 色 16 ページ 500 部)

(4) 参加者の反応

8・9 月に開催した展示事業では、実際に触れるあるいは操作してみるといったハンズオンの展示を取り入れ、子供たちにもわかりやすい展示内容を心がけた。そのため、子供だけに留まらず多くの来館者にわかりやすい展示として好評であった。さらに、鹿の毛皮でできたイェについては、実物大のものは国内には他になく、迫力のある展示であったため、多くの来館者が驚きをもって観覧していた。

学校でのワークショップ（体験学習事業）は、笠懸東小学校や笠懸北小学校では例年、総合学習の時間を利用してさかんに実施している。多くの子供たちが、体験学習事業を心待ちにしており、年度当初から積極的に体験学習事業に参加していた。福岡中央小学校と神梅小学校では、石器作りのほか、土器作りや勾玉作りが加わり、学習の幅が広がった。これらの体験学習では、児童たちが自ら体験から学ぶ喜びを味わい、体験の中で発想の柔軟性や協調性が養われ、生きる力といった面でも成長がみられた。

学習シートは、小学生にも理解しやすいように努力したが、岩宿（旧石器）時代の子供向けの解説書として、あるいは、CD-ROM からシートとして印刷活用できるものとした。理解しやすく活用の範囲も広いため、配布した教員からは大変好評であった。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回の事業により、上記のように体験学習事業の体系化が図られるとともに、その器材整備、新規の教材が導入されたより、これまでの体験学習、特に学校を対象としたものについては、全体的に大きくステップアップが図れたものと考えている。また、学習シートの作製を契機に、小学生には理解しにくかった岩宿（旧石器）時代や当館の展示について、その理解を促進することができたであろう。CD-ROM やインターネットでその情報を普及できるようになったことは、今後のさまざまな方面からの利用が見込まれ、教育普及活動が無限の広がりをもつものとなったと考えている。

岩宿博物館は、岩宿（旧石器）時代の博物館として活動しており、全国的には特殊なテーマ博物館といえるであろう。しかし、今回の芸術拠点形成事業の成果は、体験学習に取り組む他の博物館でも問題となっているその体系化が図られたこと、また、学習シートの作製に関連し、印刷物としてまたデジタル情報として、情報発信の道筋も開かれるものとなった。これらの事業成果は、同様な多くの博物館に対して事業展開の一モデルになるもので、博物館での教育普及活動としてひとつの方向性が提示できたものと考えている。

次代をはぐくむ

地域の絆

□□■115

日本の旧石器時代の存在を証明した岩宿遺跡にちなみ、笠懸東小(丹羽好行校長、児童数五百三十五人)は五年前より前から総合学習の時間を活用して古代人の生活を体験学習している。岩宿博物館が全面協力、資料提供や指導をして体系的に学べるようにしている。珍しい体験ばかりとあって児童たちに大人気。「六年生になれば僕たちもやれる」と金児童が活動に注目している。

四月に同博物館を見学、解説を受けた後に稲荷山で弓用の竹を切るどころからスタート。五月

には学校の裏山で矢にするしの竹を刈る。山道をかき分けてやぶに入り、二層にもなる竹を力マでバツサリ。女子も嫌がらずにやぶに入り「こんな

博物館が石器作り指導

笠懸東小

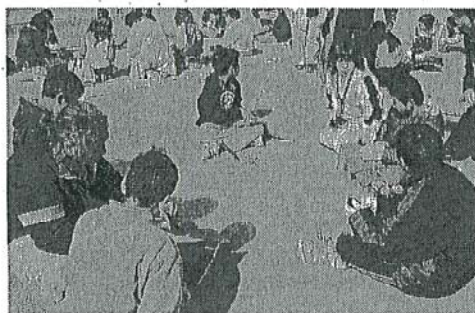
指導する。晩秋からは土器作り。粉の粘土と砂を配合して粘土を練り土器にする。分量を間違えると土器にならなくなるため、みんな真剣だ。水を少しずつ加えながらなじませて練り上げる。

土器は実際に煮炊きをするため、単純な形が多い。高さも三十センチほど。縄やへうで模様をつける。児童もいる。校庭にマキを組んで杉の葉などで四時間ほど野焼きして完成させる。

一週間たつと、その土などの野菜となべで煮

めで、こうすると水漏れはしない。「うまいよ」と子どもたちは大喜びする。親子でその土器を使ってお米を炊く。イノシシの肉を黒曜石のナイフでカットして、シイタケ、ネギ、ニンジンなどの野菜となべで煮

岩宿人の生活体験



石器作りを指導する地元のボランティア

笠懸東小6年 斎藤 涼子さん



お姉さんが楽しそうにしていた「岩宿人になろう」を1年かけて体験するのでわくわくしています。この間、学校の裏山に入り、矢にするしの竹を取ってきました。これから石器作りに入ります。いろいろなことを体験して、何万年も前にタイムスリップした気分を味わいます。

器でインスタントラーメン作り。素焼きの土器の内側に油の膜をつけるた

る。臭みのないイノシシ鍋が味わえる。同校では「遠い昔に思